

平和こそ、福祉の原点 二度と戦争は許しません！（裏表紙に声明文を掲載）

# 福祉のひろば 7

2015



特集

福祉現場にとっての  
福祉実践記録や事例検討とは……

編集 総合社会福祉研究所

# 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

## 京都建築事務所

〒 604-8083  
京都市中京区三条柳馬場東入中之町10  
代表取締役社長 川下 晃正  
TEL (075) 211-7277  
FAX (075) 211-7270  
<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

〒601-8382  
京都市南区吉祥院石原上川原町21  
<http://www.creates-k.co.jp>

## クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741  
FAX 075 (693) 6605  
送料何冊でも240円

### 輝いて生きる

高次脳機能障害当事者からの発信

橋本圭司◆編著

石井雅史・石井智子◆執筆

A5判112頁  
1300円＋税



夢中になれるものをもてるようになる。人は生きいきしてくる。ゆづり」と前進する当事者と家族の思い・願い。ご本人の言葉からこのように悩み、感じているかが伝わってきます。

### 介護福祉学への招待

地域包括ケア時代の基礎知識

松田美智子・藤川孝満

藤本文朗・埜田和史◆編

B5判200頁  
2200円＋税



7テーマ  
78項目  
1項目2Pで  
学ぶ

人としての尊厳ある暮らしの実現を目指す介護福祉学入門。社会福祉や保健・医療など関連周辺領域で学ぶ学生、介護現場ではたらく人や家族・介護者、当事者の方に最適なテキスト！

◎朝日新聞5月12日「生活面」で大きく紹介！

認知症ケアと予防に役立つ

### 料理療法

湯川夏子◆編著

前田佐江子・明神千穂◆共著

高齢者施設で人気のメニュー&レシピ14品

料理は多くの調理操作があり、動作は手続き記憶として残っている。料理を通してやる気と自信を呼びこみます！

B5判オールカラー  
2200円＋税



# なかまといっしょ 森のキッチンのチャレンジ

政令市ではじめて、障害をもつ人が働くレストラン事業を今年2月よりはじめました  
(大阪府堺市役所地下1階、社会福祉法人コスモス)





チャレンジと言っても、そこには多くのロマンが込められていました。もちろん、事業ですので、事業としての採算性は当然求められています。開設後3か月がたち、事業計画の見通しもうっすらと浮かんできました。



11時から14時までのランチタイムは集中タイムです。森のキッチンの隣、市役所会議室もこの時間だけ食堂に早変わり。ランチタイムにいかに回転数を引き上げるか、さまざまな取り組みに挑戦しています。13時から、ランチにコーヒーを付けるなど、いくつかの特典サービスも導入。14時以降も、16時半までランチや喫茶が楽しめる憩いの場になります。



# MORI NO KITCHEN

マネージャーの増田さんが手話もまじえて朝のミーティング。森のキッチン“場”が、役所の食堂から、少し開かれた地域の場に広がるロマンが見えてきます。増田さんや調理部門責任者の杉村さん、事業部門責任者の前原さんがそのロマンを熱っぽく語ります。社会福祉事業のきびしい現実の中で、彼らとなかまのチャレンジをみてきました。

(写真・文 下野祇園)

## 【ひろばトーク】

誰もが生きやすい、すてきな社会をめざして

杉村勇輔、前原由里子、増田 靖 6

# 福祉のひろば

2015年7月号

### ●特集● 福祉現場にとっての福祉実践記録や事例検討とは……

学び合い、語り合い、深め合う実践報告

～かりぶ学会のとりのくみ～

田名部みどり 10

学ぶたびに誠実に

増本 敏子 14

発達学習会は、実践をふりかえり、引き継ぐ場

小山吉英、金津芳江、野間亮史 18

今こそ、感動と共感を大切にしたいカンファレンスを……

西沢富子 22

ケース検討会・記入シート〈記入例〉

26

座談会 布藤恭子、平松知子、佐藤修、奥田次郎、中村清隆

27

### ●トピックス●

第21回社会福祉研究交流集会 in 埼玉 プログラム紹介

45

9割以上の法人は「地域公益活動」義務化に反対！

48

### ●連載●

フォーラム

植田 章 56

戦争と福祉～この国の平和と民主主義が問われている～

相談室の窓から

S子ちゃんの心の奥にあるもの(その2)

青木 道忠 58

ソーシャルワークの原点と息吹を感じて

けっこうややこしい渡英の手続き

伊藤 文人 60

育つ風景 アウシュヴィッツ

清水 玲子 62

「助けて！」って言ってもええねんで！

しんどい状況にある子と親に寄り添って

徳丸ゆき子 64

全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ

子どもの頃の思い出 絹枝(3)

千田勝夫・絹枝 66

映画案内 『風と共に去りぬ』

吉村 英夫 68

現代の貧困を訪ねて

生田 武志 70

10人が死亡した簡易宿泊所の火災 簡易宿泊所＝旅館で生活保護とは？

なにわ銭湯見聞録(27)

ラッキー的銭湯体験記・その二

ラッキー植松 72

いただきます！

大葉の薬味で食欲増進！ さわやかご飯

すみれ乳児院 74

ホームレスから日本を見れば

ありむら潜 76

花咲け！男やもめ

川口モトコ 77

みんなのポスト 54 / 福祉の動き 78 / 今月の本棚 81

●グラビア● なかまといっしょ 森のキッチンチャレンジ

声明文「私たちは戦争への道を断じて許さない」

月刊誌『福祉のひろば』編集委員会

●表紙の絵●  
神門やす子



●カット●  
川本 浩

# 誰もが生きやすい、 すてきな社会をめざして

今号は、社会福祉法人コスモス（以下、コスモス）「森のキッチン」から、社会福祉施設経営者同友会・管理職養成学校卒業生3名の方に、「夢」をかたっていたいただきました。

食事業責任者・栄養士 杉村 勇輔さん

準備段階から栄養士として関わってきましたが、四月からは「森のキッチン」に腰を据え、日々食事を作るとともに、スタッフのチームづくりにも力を注いでいます。

コスモスに入職して一四年、栄養士、支援員、主任、管理者といろいろな立場で実践をしてきました。「森のキッチン」が集大成の場であり、新たなチャレンジの場であると思っています。人とのつながり、スタッフの思いが、自分を成長させてくれています。

障害のある人、子ども、高齢者の支援をするコスモスとして「食」を大事にしていることと、「森のキッチン」の「食」のコンセプトを、新しい栄養士・調理師に伝えていくことが自分の役割です。まず、「森のキッチン」で、ホンモノのチームを作り、次はコスモス全体の栄養士・調理師のチームを高めていきたいです。夢は、はじまったばかりです。今までになく、変化していく自分に少し期待をしています。

チーフ・授産専任 前原由里子さん

福祉の仕事をするなかでいつも「いのちの尊厳」「人権」を意識してきました。「森のキッチン」に関わることで、また少しちがった視点にこだわることができるようになりました。

私事ですが、先日母が亡くなりました。最期は大好きな食事をとることができず、とてもつらかったです。その経験をへて、「森のキッチン」で食事を楽しむ、おしゃべりをし、おいしいコーヒーを飲む人のほっとした表情を見守るなかで、みんな、さまざまな生活背景を抱えているのだろうな」と思いをはせるようになりました。ここにいるお客様やスタッフの笑顔



増田さん



前原さん



杉村さん

見ると、「生きることは食べることを実感することができます。」

「森のキッチン」は、だれもが出入りでき、ここにすれば元気になる、思わず笑顔になれる場所です。行政も、地域も、福祉も、ともに手をたずさえて、障害者も健常者も関係のない、素敵な街（社会）づくりをしていきたいと願い、そんな夢の発信基地にしていきたいと思っています。

マネージャー 増田<sup>ますだ</sup>靖<sup>やすし</sup>さん

二〇一五年二月二日。この日は私とコスモスにとって歴史的な挑戦への一歩を歩み出した、記念すべき日となりました。それは「堺市役所で、障害のある人たちとともに、すてきな食堂をオープンさせる」という挑戦です。

食材はできる限り安心・安全なものを、と地元産を使用しています。さらに隣接する商店街の豆腐屋さんやお漬物屋さんなど、多くの方との出会いがあります。食堂内には、子育てママが少しホッとできる座敷の空間をもうけ、コンサートや講演会などが開けるようにも工夫しています。こんなアイデアも、地元で活動している建築家や音楽家の方々にご協力をいただきました。おいしい料理を提供することはもちろん、人がつどい関係を深めていける場づくりをめざしています。ここで多くの人が出会い、共感できる人やネットワークが広がり、「ねがい」の輪がつながって実現していくことで、障害のある方だけでなく、誰にとっても生きやすい社会となるようにとの想いを込めています。みなさま、ぜひ一度、堺市役所食堂カフェ「森のキッチン」にお越しください。



# 特集 福祉現場にとつての福祉実践記録や事例検討とは……

—— ゆたかな福祉実践そのものが、社会福祉を変える ——

今から四〇年前、真田是さん（前総合社会福祉研究所理事長・福祉のひろば編集人）は、『社会福祉労働 社会福祉における労働と技術の発展のために』のなかで、次のように指摘しました。

社会福祉労働は、資本主義の発展とともに、間違いなく量的に増大し、かつ多様なものになっていく。それは、諸個人や個別の家族の生活手段の不足分を物的に補足するものからはじまって、生活の社会化を推進・運営する労働を付け加え、やがて対象者に民主的権利保障を具体化し人間的な発達を保障し援助する労働をも生みおとすことによつて、これまでの物的



補足や生活の社会化の推進・運営と言つたものも、民主的な権利と人間的発達の保障の具体化の措置として意味づけられるよつになつてきた。そして、この民主的権利と人間的発達の保障と言つことが様々なものに分化しつづけていく福祉労働の統一・集約点になつてきているとみてよい。したがつて、社会福祉労働を貫いてきている発展法則は、社会福祉労働の広がりや民主化であり、これを通しての社会福祉そのものの民主化と言つことである。（真田是著作集第五巻 七〇頁）『福祉労働論 社会福祉における労働と技術の発展のために』